



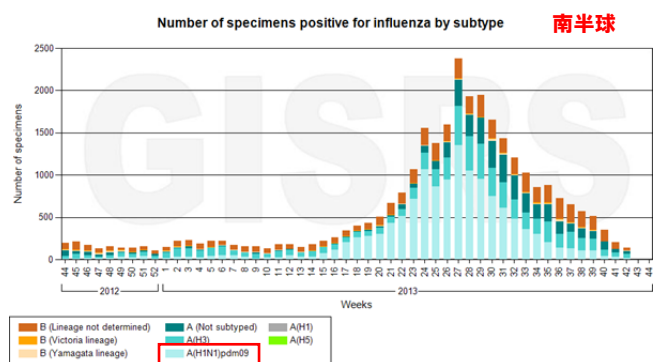
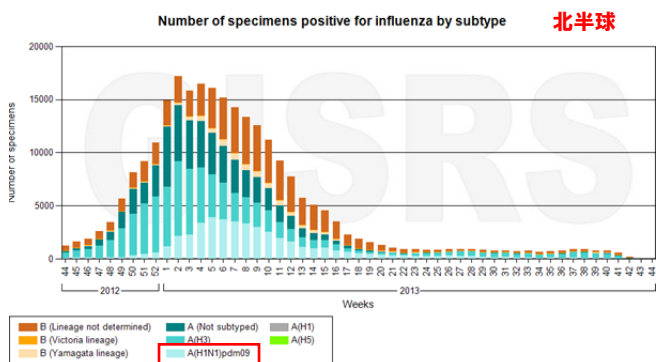
今シーズンのインフルエンザ

感染制御部

AH1N1pdm09に注意

さて、今年も残すところ2か月となり、そろそろインフルエンザのシーズンがやってきます。そこで、今回は今年のインフルエンザの状況を予測してみます。

昨シーズンは国内では、A型については、いわゆる2009年に流行した新型インフルエンザ(AH1N1pdm09)は少なく、AH3N2亜型(A香港型)が大半を占めていました。そこで、下図をみてください。この1年間の北半球と南半球の流行状況です。特に南半球の状況から、今シーズンは、昨シーズンに少なかったAH1N1pdm09が多くなりそうです。



AH1N1pdm09は香港型に比べ、若年者でも重症化する症例があったために、注意が必要です。ワクチンの接種を患者さんや周囲の方に勧めましょう。

H7N9鳥インフルエンザの再活性化

中国のH7N9が冬になり、再び流行する恐れがあるとされています。8月10日以降新たな感染者がみられなかった中国で10月になって、2人の患者が確認され、感染者は137人となり、このうち45人が死亡しています(致死率33%)。このため、インフルエンザのシーズンとなる秋以降に再

びH7N9の患者が急増するのではないかと危惧されています。親子間の感染例が報告されているものの、現在のところ

明らかなヒト-ヒト感染による拡大は認められていないため、今後の情報を注意深くフォローする必要があります。

□新型インフルエンザ等特措法に基づく大阪府の行動計画が作成されました。

この行動計画では、医療継続計画の作成や、地域医療機関の役割分担を新型インフルエンザ等の発生前から準備することが求められており、当院も協力医療機関として、救命救急や通院中の患者さんの診療に当たることとなります。これから少しずつ、具体的な計画を作成して行きますので、各診療科、中央診療部門、および事務部門のご協力をよろしくお願いいたします。